一心寺門前浪曲寄席観賞会 第７回報告

令和 ７年 2 月 10 日（月)、天王寺・一心寺門前浪曲寄席鑑賞のため一心寺南会所に 参集しました。親鴨会で浪曲鑑賞会を始めて、今回でもう７回目です。
今回も「JR 天王寺駅集合」にせず、直接一心寺南会所へ集合としました。

参加者は７ 名（次ページの写真を参照ください)、ほぼメンバーは固定です。
今回は人間国宝に認定された京山幸枝若師の浪曲とあってか、開始 30 分前には会場は結構埋まっていました。我が親鴨会メンバーは早くから参集していましたので、みな良い席に座ることができました。
今回の客の入りを見る限り浪曲ファンはだいぶ増えてきたように思いましたが、係の人に聞くと、まだまだコロナ前の状況には戻っていないという事でした。
関西では、落語・漫才に比べると浪曲・講談の人気はまだまだ低いようですね。

浪曲寄席、午後 1 時開演。本日の演者は 4 人の浪曲師。京山幸乃、春野美恵子、真山一郎、京山幸枝若、各師です。

トップバッター、京山幸乃師は京山派お家芸：会津の小鉄シリーズの一話を、張りのある声で高らかと歌い上げました。
幸乃師は期待の若手女流浪曲師、最近の成長は素晴らしいものがあります。関西の女流浪曲師として春野恵子師や菊地まどか師に続く女流浪曲師として、忙しく活動されています。
続いて、春野美恵子師、演題は「お夏清十郎」。歌舞伎や人形浄瑠璃でも有名な世話物。前回は同じく歌舞伎で有名な「藤十郎の恋」でした。男女の心情の機微、悲しい恋の行く末を切々と歌い上げました。こうした歌舞伎の世界で描かれる江戸時代の日常を、浪曲で聞くのもいいものです。
三番手は真山一郎師。初代真山一郎師の後を継ぎ、歌謡浪曲という独特の分野で一角を築き、幅広く活躍されています。三味線とは異なり、楽曲演奏の下での語り。今回のテーマは、生みの母と育ての母の間に生ずる微妙な感情。お互い相手のことを思いやり、一方では子のことを思いやり、難しいテーマです。最後まで、結末はどうなるのかハラハラしながら聞きほれました。
最後トリは、待ってました、人間国宝京山幸枝若師の出番です。観客の熱も一段と上がり、拍手も大きくなりました。
昨年七月の人間国宝認定以降、機会があるごとに京山幸枝若師の公演を見ましたが、見るごとに、姿、身振り、声や節回し、そして盛り上げの上手さなど、一回り大きくなったように思えます。浪速だけじゃなく、日本の浪曲界を牽引し、大きく成長させていただきたいものです。今日も素晴らしい語りでした。

浪曲終了後、会場玄関にて参加者全員の記念写真撮影、演者の皆さんが記念写真にご一緒下さいました。
有難たいことです。

前列：左より（敬称略）
東端幸雄、西田義雄
京山幸乃師、京山幸太師
有賀清隆（立姿勢）
後列：左より
西野信夫、入田泰壽
瀬並和弘（中腰）
灰本董、春野美恵子師
京山幸枝若師
浪曲会係員、浪曲会係員
真山一郎師

浪曲会からの帰路、恒例の懇親会。
参加者７名でJR天王寺駅近くの居酒屋「吾作どん」で軽く一杯、浪曲の感想やIBM時代の昔ばなし、更には米国の新トランプ大統領の斬新？な施策などを酒の肴に楽しいひと時を過ごしました。

来年度もまた「一心寺門前浪曲寄席観賞会」を実施したいと思います。
ご参加の程よろしくお願いいたします。

文責：親鴨会関西幹事　西田義雄